

学校の概要（平成 15 年 4 月現在）

学校名	天理市立北中学校					
学年	1 年	2 年	3 年	障害児学級	計	教員数
学級数	3	3	4	5	1 5	3 4
生徒数	1 0 7	1 1 4	1 2 2	7	3 5 0	

研究の概要

1. 研究主題

「基礎基本の確実な定着と個に応じた指導の在り方について」
～習熟度別少人数授業の効果的な活用～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・数学（習熟度に大きく差があるため）

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ 基礎基本の確実な定着を図るための少人数授業の在り方</p> <p>仮説 生徒の希望制を取り入れた習熟度別少人数授業を、年間を通して実施することによって基礎基本の定着が図れる。</p> <p>研究内容・方法 数学の授業をすべての学級で希望制による習熟度別に2つに分け、別々の教室で2人の教師が指導する。各学年で、単元ごとにグループの編成を行い、どういうグループ編成がよりよいものであるか、生徒の意識やテストを通して探る。</p>
--------------------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ 少人数授業における個に応じた指導の在り方</p> <p>仮説 少人数授業において、今まで以上に意識した個に応じた指導を行うことにより、基礎・基本の定着が図れる。</p> <p>研究内容・方法 少人数授業において、個に応じた指導を徹底するため、学習形態・指導の方法・家庭学習との連携等について工夫・改善し今まで以上の成果を図る。</p>
--------------------	--

(3) 研究推進体制

校長・教頭

運営委員会 (校長・教頭・教務主任・生指主任・人推主任・学年主任)

学力向上委員会 (教科主任・数学科担当教師)

職員全体研修

平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1 . 研究の成果

生徒の意識調査の結果、少人数授業が生徒からは好評で、これからも少人数授業を受けたいという生徒が大半であった。(別紙参照)また教師側としても授業中の様子が一斉授業よりも生き生きとしていて、活動的であることは容易に感じとれる。グループ編成については、基礎基本コースの人数が半分の人数を超えないように教師側が働きかけることもあり、完全希望制はとれなかったが、編成はスムーズにいき、生徒の間でも違和感なく受け入れられた。また全教師対象に「学力向上にむけての取組について」の講師を招いての研修会では、教師全体の意識アップが図れ、校内研究授業も定期的な実施できた。

2 . 今後の課題

学年一斉の計算テストを実施し、学年ごとにまた習熟度別グループごとに集計はしたが、基礎基本の定着が習熟度別少人数授業によって図れたかという客観的なデータを作成することは難題である。また、日々の取組の交流をもっと頻繁に実施し、来年度のテーマである授業の工夫・改善を前進させたい。

学力把握のための学校としての取組

全学年一斉の「基礎計算テスト」を実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成 16 年度に研究成果を発表する予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--|---------------------------------------|--|-------|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下 | 4～6学級 | | |
| | 7～9学級 | 10～12学級 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 13～15学級 | 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | T・Tによる指導 | | |
| | その他 | | | |
| 【研究教科】 | 国語 | 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 数学 | 理科 |
| | 外国語 | 音楽 | 美術 | 技術・家庭 |
| | 保健体育 | その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善の関わる加配の有無】 | | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | 無 | |